**水化学ロードマップ2018の作成要領(案)**

2019/3/28

青字ハッチング部追記・改訂

日本原子力学会が作成する「水化学ロードマップ2018」の基本構成は下記の通りとする。

**1.深層防護との関連**

第4章の「自主的安全性向上に向けての水化学ロードマップ策定およびフォローアップの基本方針」に記載。

**2. 各安全基盤研究課題の構成**

第5章～第9章については、下記の構成とする。

①本文、②課題調査票、③導入シナリオ、④技術マップ、⓹ロードマップ

**3. 記載内容**

①共通事項

・軽水炉安全技術・人材ロードマップに係る記載を追記

　「経済産業省資源エネルギー庁「軽水炉安全技術・人材ロードマップ」への紐付け。

・新規制基準対応に係る記載の追記

　１F事故以降の現状分析として、設備追加による作業量の増加を考慮し、線源強度低減の必要性を基に記載。

②本文

第4章の深層防護との関連付けを含む「水化学ロードマップ改訂の基本方針」、および課題調査票を基に、「概要」、「課題とする根拠（深層防護との関連）」、「現状分析」、「期待される成果（成果の反映先）」、「成果によって得られる効果・便益・成果活用」、「必要な人材基盤」、「実施機関/資金担当の考え方」の項目立てで作成する。深層防護との関連については、(A)「現状分析」の前に略述する。(A)「現状分析」、および(B)「研究方針と実施にあたっての問題点」については、課題調査票の実施項目毎に記載する。

ページ番号は、6.1.2-5のように項の番号とする。参考文献は項毎に記載し、[6.1.2-5]のように上付きで、付番する。

また、「軽水炉安全技術・人材ロードマップ」の課題調査票の「マイルストーンおよび目指す姿との関連」、「概要（内容）」、「具体的な項目」、「課題として取り上げた根拠」、「現状分析」、「期待される効果」および「実施機関／資金担当＜考え方＞」を参考とする。項目立ては下記のとおり。

6.1

6.1.1

(A)現状分析　→　課題調査票の実施項目毎に記載

　(1)〇〇のメカニズム解明

①〇〇知見の整理

②〇〇の影響評価

③〇〇の検討

……

　(2)〇〇対策技術の開発

　(3)〇〇評価技術の検証

　(4)……

(B)研究方針と実施にあたっての問題点

　→　課題調査票の研究実施項目ごとに記載することとするが、課題全体に共通の場合にはまとめて記載することも可能とする。

　(1)〇〇のメカニズム解明

①〇〇知見の整理

②〇〇の影響評価

……

　(2)〇〇対策技術の開発

　(3)〇〇評価技術の検証

　(4)……

(C)産官学の役割分担の考え方

(D)関連分野との連携

本文の章・節等は11ポイントでMSゴシック（Arial）、本文は11ポイントで日本語はMS明朝（英数字はTimes New Roman）、ページ毎の行と文字数（40行、42文字）やマージン（上：25mm、下25mm、左30mm、右25mm）等は6.2節をテンプレートとする。

③課題調査票

　人材RM とのリンクを考慮し、課題調査票の記載内容の整合を図る。

「課題名」、「マイルストーンおよび目指す姿との関連」、「概要（内容）」、~~「具体的な項目」~~、「導入シナリオとの関連」、「課題とする根拠（深層防護との関連）」、「現状分析」、「期待される成果（成果の反映先）」、「実施にあたっての問題点」、「必要な人材基盤」、「他課題との相関」、「実施・期間」、「実施機関/資金担当の考え方」、「その他」の項目立てで作成する。

④導入シナリオ

課題毎に、「必要性」、「現状分析」、「研究方針」、「課題解決に向けた進め方」、「産官学の役割分担」、「産官学の連携」および「関連分野の連携」を取りまとめる。

　実施項目のうち、産業界が主体的となるものはピンク、国・官界が主体となるのは青、学術界が主体となるものは緑、学協会が主体となるものは黄色で表示する。

⑤技術マップ

「課題調査票の概要」、「技術課題」、「概要」、「実施時期/期間」、「役割分担（実施／資金）」を一覧表にまとめる。（人材RMのフォーマットに従うことが好ましいが、作成負荷軽減を考慮してRM2009 のフォーマットを踏襲）

⑥ロードマップ

・短期：2020年まで、中期：2030年まで、長期：2050年まで

・人材RM とのリンクを考慮し、マイルストーンの整合を取る。

マイルストーンの表記は原子力学会の人材RMや第6.2.1節および第6.2.2節を参考に、「PWRとBWRの再稼働状況」等を記載する。その他、関連のある課題間でマイルストーンを合わせる（例：SCCと状態監視保全）。実施項目のうち、産業界が主体的となるものはピンク、国・官界が主体となるものは青、学術界が主体となるものは緑、学協会が主体となるものは黄色で表示する。

⑦略語表（巻末）

各章の担当者は、用いた略語を河村まで送付。　　　　　　　　　　　　　　　以上